

朝日新聞 2018 年（平成 30 年）11 月 2 日（金）

## どん底の私を救ってくれた

大学生 中村 菜穂  
（京都府 19）  
いまも大切に持っている贈り物がある。小学校 4 年の冬、スキーで右足を骨折する大けがをし、学校を 2 週間以上休むことになった。日が経つにつれ勉強の遅れが気になり、友だちとも会えなかったのが寂しさが募った。

母が働いていたので、祖母の家で療養していた。毎日、母が学級通信や授業のプリントを入れた封筒を届けてくれた。ある日、封筒

をあけてみると冊子が入っていた。表紙には「はやく元気になあれ♡」という文字が。ページをめくってみると、クラス全員がハート形の紙にメッセージを書いていた。うれしさのあまり何度も何度も読み返した。

その冊子は担任の先生が提案し、私の親友を中心に作ってくれたのだと知った。どん底の気持ちを救ってくれ、友だちとつながり合わせてくれた先生を一生忘れない。この先生のように私はなる。

承諾番号「18-5126」

※朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。